令和6年度長野市スポーツ推進審議会（第2回）会議録

日 時	令和6年11月25日（月） 午後1時30分～午後3時00分
会 場	長野市職員会館3階 大会議室
出席者	委員10名、オブザーバー1名、事務局9名
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 あいさつ</p> <p>3 議 事</p> <p>(1) 社会体育館の有料化に関する検討状況について</p> <p>4 そ の 他</p> <p>5 閉 会</p>
議 事	<p>(議事進行 堀江会長)</p> <p>議事(1)：社会体育館の有料化に関する検討状況について</p> <p>事務局より、資料1について説明</p> <p>会 長：事務局から有料化に関する検討状況について報告があり、項目別に①社会体育館利用状況の把握・分析（中間報告）、②開館時間延長事業、③空調設備設置事業、④有料化 今後の進め方についての4点となるため、項目ごと協議したい。</p> <p>以下質疑応答</p> <p><u>①社会体育館利用状況の把握・分析（中間報告）</u></p> <p>G 委 員：事務局から、もう少し詳細な分析が必要だという説明を受けた。9～10月に実施した社会体育館の利用状況の調査結果で、今後の方向性の末尾に、『曜日、時間帯別の利用者の年齢層、また半面を使用している団体の利用状況について調査、把握する』という記載があるが、今後の料金体系を検討するにあたり、体育館を利用して実施しているスポーツ種目の把握状況を知りたい。</p> <p>また、団体利用の場合、中学の部活動、小学生の社会体育、ミニバス等の地域スポーツクラブ、社会人のクラブチームや仲間内の仲良しクラブなどの種別判断を行い、利用料金の設定の有無は別として、今後の一つの指標、ベンチマークとして検討いただきたい。</p> <p>事 務 局：競技種別について分析はしているものの、料金体系とか料金水準にはあまり影響がないものとする。</p> <p>一方で、体育館の半面使用をどのように考えるかという問題がある。半</p>

面だけ利用している団体があると、残り半面は空いている。この場合、半面を使いたい別の団体は使えるものの、半面を利用したい団体と一面を確保したい団体は両立しないため、半面利用についてどのように検討を進めるかは課題である。

また、利用団体の年齢の考え方で、例えば、50歳のコーチ1名と、10歳の子供が5人で利用する場合、平均年齢は20歳ぐらいになるため、年代別利用者の年齢層の考え方が難しい。そのため、団体ごとに、子供の団体とか仲良しクラブの団体のように判別していかなければ上手くいかないと考えており、どのように調査を進めるべきか研究中である。もう少し細かいところを見ていかないと、細部の把握に至らないと承知している。

②開館時間の延長等につく検討事項

H 委員：開館時間の延長、早朝の利用については、非常に良いという意見が多い。開館時間が延長できる施設は他にあるのか、それとも条例で変えていかないといけないのか。

事務局：これ以上増やせるかどうかは、周囲への影響によると考えている。この2施設は比較的周りに民家がないため、場合によってはもっと長く使うことや、利用があるかは別として24時間体制で開くこともできる。そういう点も踏まえて今のところ、この2施設に絞らせていただいている。

H 委員：この調査を踏まえ、今後対象施設を増やす予定はあるか。

事務局：この2施設が限界なのか、もう少し増やせるのか調査中である。

E 委員：先ほど(①)とも絡むが、利用率が市街地で85%と高く、中山間地でも4割位、早朝夜間の検証でも比較的高い割合であり、有料化するときの前提として、古い体育館もあれば新しい体育館もある中で、すべての体育館を残すというスポーツ課の考え方に対するすごく良い意味付けになると思う。可能であれば、予約システムで算出した体育館利用率の高さを示すことで、空調のことを絡めながら、有料化をしてすべての体育館を残していきたいということを、議会の方にも伝えられると感じた。

D 委員：私達は、豊野体育館の愛護会としてミニバスケット等を実施しており、小中学生を対象に、午後8時位まで活動している。その後、社会人の利

用者が仕事終わりに集まって、バスケットボール、バドミントンやバレーボールなどを行っており、結構利用率が高いと感じている。夜間の部分で、利用時間の延長は非常に歓迎されると思う。私どもは体育館の補助的な立場で管理に関わっていて、利用者には利用後にフロアのモップ掛けをしてもらっているが、利用率が高まれば、その他附帯部分、トイレの汚れとか廊下に溜まる埃が増えるなど、どこまで利用者に清掃を徹底できるのかが一つの課題と考える。

平日の昼間は、地域の子どもや高齢の方達の活動くらいで、空いている時間もあるという感じだが、土日だと夜間までほとんど一杯で、利用率が高いと感じている。

昨年度の長寿命化改修工事後は、体育館内も非常に明るくなり、利用環境は良くなった。この後の協議事項にある空調設備を早めに進めて欲しいという意見が結構ある。

事務局：トイレなどの清掃は、今後の有料化で充実が図れるよう、コストとして積み上げて利用料金を試算している。

B 委員：今、2施設だけに限られた早朝開放だが、夏季の早朝開放は、冷房費の節約が図られると感じる。また、市街地の体育館にもモデル体育館を設置したら、中学の朝練とか仕事前の朝活とかの利用ができ、歓迎されるのではないかと。

事務局：先ほどと同様、近隣に迷惑が掛からないよう体育館を選定する必要がある。小中学校体育館は、校舎やグラウンドに囲まれていたり、広い敷地の中に配置されているが、社会体育館は、住宅街の中に設置されていることも多いため、慎重かつ大胆に判断していきたい。

K 委員：早朝、夜間の時間延長で、騒音を心配されるのであれば、子供達がワチャワチャしてしまうのはどうしようもないが、ボール等器具を使わないトレーニングなどに活動内容を限定することを検討してはどうか。

事務局：人が集まると、冬の暖機運転など施設外での騒音も想定されるため、近隣に配慮しながら、という繰り返しになる。

H 委員：先ほど話に上がった豊野体育館は、利用時間が他の社会体育館と少し違う。今後、社会体育館の利用時間の変更は検討しているのか。例えば、今は午前8時半開館だが、利用団体を把握することで、8時から10時までとするとか、夕方であれば18時から20時、夜間であれば20時か

ら 22 時とか、22 時まで利用時間の拡大が図れるなど、検討していることがあれば教えて欲しい。

事務局：利用時間の見直しは、有料化とは若干異なる話だと思う。今後、議論になると考えるが、現状でお示しできるものはない。

H 委員：朝の開館が 30 分でも前倒しされれば、利用しやすくなると思う。

G 委員：社会体育館開館時間延長事業の結果は、極めて好意的な意見、感想が多い。市としては、開館時間延長において時期的な設定は考えているのか。

事務局：今年度中に冬の実証を行い、年間を通して出来るのか、ある程度日の長い季節でないと出来ないのか判断したい。

G 委員：私は、比較的日の長い時期に限定するのかと思った。良くサックコスト効果という言い方をしますが、住民サービスのため、良かれと思ってやったことが、逆に経費が掛かり、事業の足を引っ張る結果になってしまうことで、効率の悪い時期にも実施することで余計なコストが発生し、本来の効率化を高める効果の足を引っ張ることのないように、サックコスト効果も一つの照準に入れながら時期を選択すべきと考える。それと同時に、一コマ 2 時間という単位はどうか。

事務局：まず、コストの話だが、今回実証実験ができたのは、無人施設のため、延長に係るコストがあまり掛からないと考え実施したもの。一コマ当たりの時間を 1 時間にしたらどうか、という意見も過去にはあった。学校の授業が 50 分のため、そのような話があったようだが、体育館の鍵を、開けてから閉めるまでの時間を一コマの時間として貸し出しているため、一コマ 2 時間が基本線となっている。

G 委員：一コマ 2 時間は短いと感じている。実際、私や子供たちも社会体育館を利用しているが、実働 1 時間半あるかないか。ランニングをして、基礎練習をして、ボール競技であればボールを使いながら実践練習を行い、30 分前若しくは 20 分前に切り上げて床掃除をして、最後はミーティングをして鍵を閉じる。実働 1 時間半という中で、それが果たして適正な時間なのかどうか。逆に、事務局から説明のあった一コマ 1 時間にしておきながら、延長 3 コマまで取れるとか、フレキシブルな対応ができないだろうか。これから、部活の地域移行が始まり、学校体育館が使えない状況も想定出来るなかで、学校の部活で社会体育館を土日利用すると

きに、2時間で満足する成果が上げられるか疑問に感じており、将来的な課題として、社会の動き方に沿った対応の検討も必要と考える。

事務局：松本市では、利用者の要望から、一コマ1時間という枠も設けたことを聞いている。将来的な課題として受け止めておく。

③空調設備設置事業について

H 委員：ヒエスポを設置している体育館の扉は、非常口扉にもなっているが、消防法上解決されているのか。

事務局：ヒエスポは、キャスターによる可動式であり、使うときにセットして、終わったら退かすため大丈夫である。

D 委員：ヒエスポは、夏利用のため採用されたと思うが、冬場の空調利用についての検討はないのか。

事務局：ヒエスポという名称だが、暖房機能付きで冬場も使える。

A 委員：政府の来年度予算（案）提示の中に、防災対策として、体育館及び公共施設へ相当予算付けされることが謳われている。社会体育館、学校体育館を防災拠点としている拠点はいくつあるのか。今、どこで災害が起こるか予想ができないので、トータル的に考え、空調対策が必要と感じている。

事務局：32の社会体育館のうち、避難所の指定は17あり、その体育館へは国の補助を利用しながら空調等の整備が可能と考える。

④有料化 今後の進め方

E 委員：ここで決まった利用料金をそのまま徴収するのか、段階的に上げていくことが可能なのか。今のタイミングで据え置きを決めるのか、段階的に決めて、利用料金を少しずつアップしていくことが可能なのか。利用率の高さは理解できるが、利用人数は、平均すると10人と決して多くない。更に少人数の場合があるときに、当面据え置きの基準を決めるというよりも、段階的に利用料金を上げてもいいのではないか。今が無料だから余計そう思う。

事務局：まだ、利用料金が決まった訳ではなく、今後決まるであろう利用料金についてのご意見だと思うが、そのようなことを含めて、料金区分とか割引割増等の基準を決定するものと考えている。どういう状況が一番望ましいか、利用形態、利用人数を詳細に分析する必要があり、それらを踏まえ、最終的にどういう金額、どういう料金体系にするかの議論になってくると考える。

E 委員：料金体系の根拠は。

事務局：我々が持っている根拠は、コストがこれだけかかるというもので、以前にお示しした金額である。最終的な利用料金に関しては、決定しているものは一切なく、これから決まるものである。

会長：今の質問で、もう一点、無料からいきなり上げるのではなく、段階的に上げられるかということに触れていた。

事務局：利用者負担に関する基準の中に、激変緩和が盛り込まれている。利用料金を決めるにあたり、そういったことも含めて、今後検討を深めてまいりたい。

会長：今まで、長きにわたり社会体育館有料化の検討をさせていただいた。今ある社会体育館を、すぐ減らさず稼働させていくために、どのように利用していただくか、どのように利便性を良くするか、ということが有料化につながるということを前提としてスタートした。その中で、皆さんと検討を進めるなかで、有料化は致し方ないという総論的な結論の元、空調や開館時間延長などプラスアルファのサービスも出来るという話に繋がっている。

それらに合わせ、防災や早朝夜間の近隣への対策など別の問題が絡んでいる。その中で、部活の地域移行は、とても社会体育館に影響を及ぼしていると思う。数年前に、経済産業省が部活問題に触れる中で、学校施設を民間開放し有効に活用するという、学校不動産の価格最大化について謳われていた。この問題は、スポーツ課だけでは無理な話で、教育委員会ほか様々なセクションが絡むことだが、社会体育館並びに学校体育館の有効活用について、長野市として総合的に判断をして欲しいと願う。

4 その他

G 委員：全くこの社会体育館とは違うが、先日、信濃毎日新聞に、長野市は大手スポーツコンサルタントと提携し、長野市のスポーツ文化を推進していくという記事が大きく掲載された。とても良い事だと思う。

今年は、中野市の信濃グランセローズが全国制覇した。また、去年は、Bリーグの千葉ジェッツが優勝し、その時に千葉に出張で訪れたが、最寄り駅から目抜き通りにかけて、大きなフラッグが道路の両側に 500m に渡りドーンと立っていた。長野市自体がスポーツ文化を推進していくという中で、市民若しくは観光客に、きちっと見える化していく手段、見える化する作業をもっとやっていいと思う。

長野市は、多くのプロスポーツを支援している中で、それぞれが成果を上げたときには、その喜びを市民と共有していくべき。そのためには、しっかり評価し、みんなで歓喜し盛り上げるべきと判断されれば、フラッグ等々含めて見える化も必要と考える。

中学校や高校では、北信越大会や全国大会への出場が決まると、横断幕が掲げられており、これも一つの見える化だと思う。

長野市を一体としていく大きなチャンスと捉え、スポーツ課は、それを推進していく立場の一番の窓口と理解しているので、もう少しスポーツ文化を、市長自身が推進していくということ、見える化してもいいと感じている。

事務局：プロスポーツの開幕に合わせて、駅のコンコース等にバナーなどを掲げているが、まだインパクトが少ないので今後考えていきたい。

ちょうど明日、13時開始の信州ブレイブウォリアーズの試合に、市内小中学生5千人を招待している。子供たちに、是非一流のプレーに触れて欲しく、去年に続いて2回目の開催であり、今年度はもう一回、2月に予定している。今年度は2万8千人の児童生徒に対し約1万人位の児童生徒に触れる機会を作ろうとしている。

長野市は、オリンピックや国体などの開催により、政令市でも1つ2つしかないような施設を多数保有している。また、長野市をホームとするプロスポーツが4チームある。何より、長野オリンピック20周年記念の時に、長野オリンピックを開催して良かったとの意見を9割の方から頂いたアンケート結果があり、スポーツに対し非常にポテンシャルの高い都市だと思っている。私達は、そのポテンシャルの更なる高みを目指すよう、今後スポーツを推進してまいりたい。

会長：G委員からは大変貴重な話を頂いた。スポーツの推進がこの審議会の名目であり、会を代表してお話を頂き感謝申し上げます。私も昔、プロスポーツに関わったので、大変うれしく感じた。

今回、いろんな外部の知識を持った方を入れることはいいが、最後は、地元の企業や地元の人が潤うような方向に進めて欲しいと行政に対して一点お願いしたい。全国の色々なスポーツ都市を見ているが、大手資本を入れて、地域をないがしろにして上手くいかなかった例を何回か見ている。地域スポーツは、やはり地域が盛り上がらないと難しいと思う。知識や資本だけ外部から来たところが多いが、それだけでやっていると、必ず地元全体から反発が出ると思う。長野市は、その辺を考慮してもらいたい。

講 評

オブザーバー：会長のまとめにもあった中学校の運動部活動の地域クラブ移行は、県全体としては、長野市を中心にこれから進んでいくと考えている。それを見据えた取り組みの1つと思いながら参加した。今後、平日の活動も含めて、中学校の施設だけでは対応しきれない、間に合わないという状況が予想される。それも含め、今まで社会体育館を利用していたスポーツ少年団、社会体育の子供たちや社会人等々とどのように折り合いをつけながら施設を有効に利用していくかを、県としても考えていかなければいけない。

G委員の発言にもあるように、長野県の約200万人という人口に対するプロスポーツと呼ばれるトップスポーツチームの割合は他県と比較して多い。長野県は、冬季種目も盛んだが、わずか数年の間に、スポーツの環境が変わったと感じる。長野市には、ぜひ盛り上げて欲しいと話があったが、南信のバレーボールチームを始め様々なプロチームがあり、県も一緒になって、県全体のスポーツが盛り上がっていくように、そこに子供たちもしっかり関わっていかれるようなことを一緒に考えていかなければいけないと感じた。

スポーツ部長挨拶
以上